

2019年（平成31年）

3月22日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

3/7~3/13のNYMEX・WTIは、56.07~58.26ドルの範囲で推移した。

3月14日は、前日EIA在庫週報の米国原油在庫の大幅取り崩し、ベネズエラの更なる減産、同日OPEC月報の2月の加盟国の更なる減産が意識され、4日続伸した。ただ、米中首脳会議の先送り観測が上値を抑えた。4月限終値は前日比0.35ドル高の58.61ドル。

週末15日は、米国鉱工業生産指数の軟調さ、週末の利益確定売り等により、小反落した。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は833基（前週比1基減）と4週連続減少となった。4月限終値は前日比0.09ドル安の58.52ドル。

週明け18日は、OPEC・主要産油国の協調減産が下期も継続されとの観測が浮上し、反発した。この日、アゼルバイジャンのバクーでOPEC等は閣僚監視委員会を開催し、現行の協調減産の見直しは6月25日の定例総会・合同会合に先送り、4月の臨時総会・会合はキャンセルされた。会議後会見でサウジのファリハ・エネルギー相は「原油市場は正しい方向に向かっている」と発言した。4月限終値は前週末比0.57ドル高の59.09ドル。

19日は、前日のOPEC・非加盟産油国会合を受けた協調減産の下期への延長観測が浮上、停電と経済制裁によるベネズエラの出荷停止もあり、小幅反落した。4月限終値は前日比0.06ドル安の59.03ドル。

20日は、EIA在庫週報で、米国原油在庫が前週比960万バ

レル減と市場予想に反する取り崩し、ガソリン・中間留分在庫も市場予想を上回る取り崩しであったことから、国内供給過剰感が後退し、反発した。4月限終値は前日比0.80ドル高の59.83ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（4月渡し）は3月7日~13日の間66.30~67.00ドルの範囲で推移した。3月14日68.00ドル、15日67.40ドル、18日67.30ドル、19日67.50ドル、20日67.60ドルで推移した。

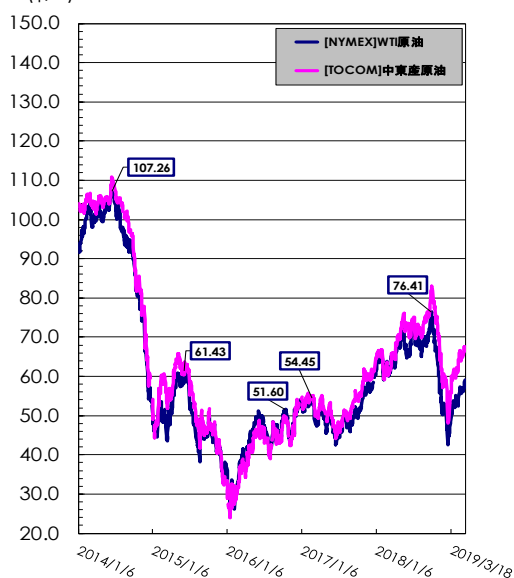
為替は3月7日~13日の間110.95~111.67円の範囲で推移した。3月14日111.29円、15日111.94円、18日111.58円、19日111.33円、20日111.65円で推移した。

財務省が18日発表した貿易統計（速報・旬間）によると、2月下旬の原油輸入平均CIF価格は、43,334円/klで、前旬比740円高、ドル建ては62.45ドルで前旬比0.55ドル高。為替レートは1ドル/110.30円だった。また、同日発表の貿易統計（速報・月間）によると、2月の原油輸入平均CIF価格は、42,884円/klで、前月比235円安、ドル建ては62.19ドルで前月比0.50ドル安。為替レートは1ドル/109.64円だった。

そのような中で、3月18日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油も同0.2円の値上がり、灯油は同2円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに5週連続の値上がりだった。この週（3月第3週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、0.5~1.0円の値上げに分かれた。

		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/10 ~ 3/16	3,564	▲ 18	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	91.0	▲ 0.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/16	13,056	▲ 951	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	3/18	66.71	▲ 0.73	▲ 4.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	3/18	59.09	▲ 2.30	▼ -3.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月下旬	62.45	▲ 0.55	▼ -5.82
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	43,334	▲ 740	▼ -3,611
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.30	▼ -0.90	▼ -0.97
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/18	112.58	▼ -0.63	▼ -5.65

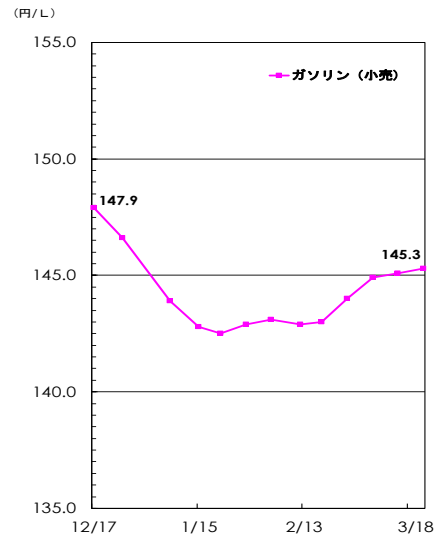
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/10 ~ 3/16	995 ▼ -19	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	903 ▼ -6	▲ -
	輸出	"	109 ▲ 55	▼ -
	在庫	3/16	1,621 ▼ -17	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/12 ~ 3/18	59.7 ▼ -0.3	▲ 2.4
	先物 [期近物/終値]	3/12 ~ 3/18	57.1 ▲ 0.5	▲ 2.6
	(TOCOM/中部)	3/18	59.5 ➡ 0.0	▲ 2.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/18	145.3 ▲ 0.2	▲ 1.8

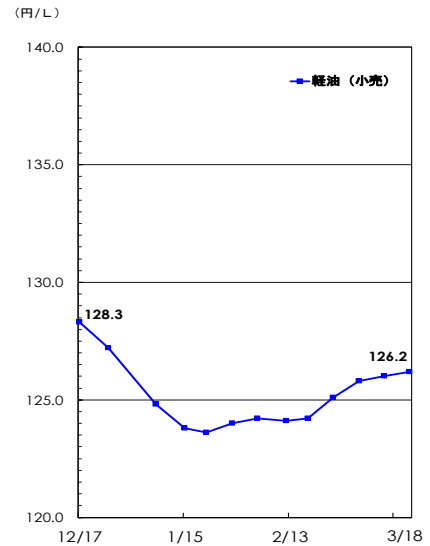
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

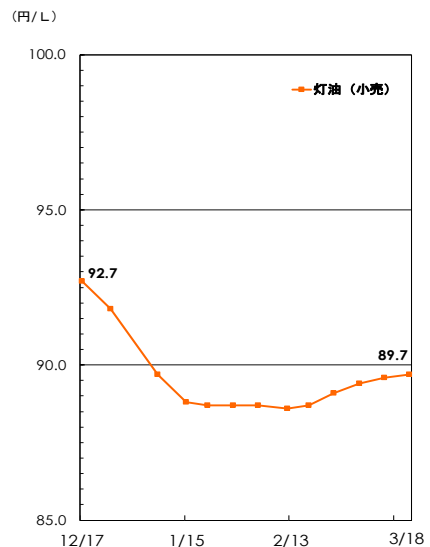
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/10 ~ 3/16	812 ▼ -21	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	666 ▲ 27	▲ -
	輸出	"	169 ▼ -3	▲ -
	在庫	3/16	1,509 ▼ -22	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/12 ~ 3/18	63.4 ➡ 0.0	▲ 4.4
	先物 [期近物/終値]	3/12 ~ 3/18	64.6 ▼ -0.2	▲ 2.6
	(TOCOM/中部)	3/18	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/18	126.2 ▲ 0.2	▲ 4.0

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/10 ~ 3/16	256 ▼ -29	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	314 ▼ -69	▲ -
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -
	在庫	3/16	1,440 ▼ -58	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/12 ~ 3/18	62.7 ▲ 0.1	▲ 0.7
	先物 [期近物/終値]	3/12 ~ 3/18	62.9 ▲ 0.8	▲ 3.2
	(TOCOM/中部)	3/18	63.6 ▲ 0.6	▲ 4.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/18	89.7 ▲ 0.1	▲ 1.7



■ 関連情報

1 海外/原油

3月20日のNYMEX市場WTI原油は、OPECと主要産油国による協調減産が順調に進む中、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油在庫が前週比960万バレル減と市場予想(前週比30万バレル増)に反して取り崩しになったこと、ガソリン在庫も460万バレル減、中間留分在庫も410万バレル減と予想を大きく上回る取り崩しであったこと、さらに、米連邦準備制度理事会(FRB)が本年の利上げ見送りを発表したことから、反発した。4月ものは一時60ドルの大口をつけた。4月限終値は前日比0.80ドル高の59.83ドル。5月

限の終値は前日比0.94ドル高の60.23ドルだった。

EIAによると、3月18日時点のガソリンの小売価格は、前週比7.7セント値上がりの1ガロン2.548ドル(75.7円/ℓ)、ディーゼルは同0.9セント値下がりの3.070ドル(91.2円/ℓ)となった。ガソリンは6週連続の値上がり、ディーゼルは8週ぶりの値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成31年3月10日～3月16日に休止したトッパ能力は11.5万バレル/日で、前週に対して1.6万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は356.4万klと、前週に比べ1.8万kl増加。前年に対しては9.4万klの減少。トッパ稼働率は91.0%と前週に対して0.5ポイントの増加、前年に対しては2.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.8%減、ジェット/22.2%増、灯油/10.3%減、軽油/2.5%減、A重油/8.3%減、C重油/8.6%増。今週のC重油の輸入は0.3万kl(前週比0.3万kl減)。軽油の輸出は16.9万kl(前週比0.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではA重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は90.3万kl(対前週0.6%減)と前週比で2週振りで減少となり、11週連続で100万klを下回った。ジェット7.1万kl(対前週185.3%増)、灯油31.4万kl(対前週

18.0%減)、軽油66.6万kl(対前週4.1%増)、A重油22.1万kl(対前週3.8%減)、C重油23.4万kl(対前週6.1%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (3/10 ~ 3/16)	前週 (3/3 ~ 3/9)	前週比
ガソリン	903	909	▼ -6 (-1%)
ジェット燃料	71	25	▲ 46 (184%)
灯油	314	383	▼ -69 (-18%)
軽油	666	639	▲ 27 (4%)
A重油	221	230	▼ -9 (-4%)
C重油	234	220	▲ 14 (6%)
合 計	2,409	2,406	▲ 3 (0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月16日時点の在庫は、ジェットで積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは162.1万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては9.1万kl少ない。

灯油は144.0万kl、前週差5.8万kl減。前年に対しては6.8万kl多い。

軽油は150.9万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては22.4万kl多い。

A重油は78.6万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては8.9万kl多い。

C重油は196.2万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては9.8万kl多い。

(単位: 千KL)

	今週 (3/16)	前週 (3/9)	前週比
ガソリン	1,621	1,638	▼ -17 (-1%)
ジェット燃料	868	790	▲ 78 (10%)
灯油	1,440	1,498	▼ -58 (-4%)
軽油	1,509	1,531	▼ -22 (-1%)
A重油	786	798	▼ -12 (-2%)
C重油	1,962	1,979	▼ -17 (-1%)
合 計	8,186	8,234	▼ -48 (-0.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月12日から18日の原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはわずかに円高だったが、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、3月12日～18日の間、ガソリン113円台で横ばい、軽油63円台でわずかに値上がり、灯油62円台でわずかに値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン113～114円台で、出入り後値を戻し、軽油64～65円台で横ばい後値上

り、灯油62～63円台で値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン110～111円台で値上がり後値下がり、軽油64円台で横ばい、灯油62～63円台で値上がり後値下がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに0.5～1.0円の値上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、陸上・海上のガソリン、先物・軽油で値下がり、陸上・軽油で横ばいを除き、他の油種・他全取引で、前週平均と比べ値上がりした。

3月第4週(3/21～3/27)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3/12～3/18千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は横ばいだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.6円の値下がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油も0.1円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.5円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。

3月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに0.5～1.0円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
ス ポ ッ ト 価 格	陸上ローリー 4地区平均]	今週 (3/12 ~ 3/18)	前週 (3/5 ~ 3/11)	前週比
	レギュラー	59.7	60.0	▼ -0.3
	灯油	62.7	62.6	▲ 0.1
	軽油	63.4	63.4	→ 0.0

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
先 物 価 格	[期近物/終値] [平均]	今週 (3/12 ~ 3/18)	前週 (3/5 ~ 3/11)	前週比
	レギュラー	57.1	56.6	▲ 0.5
	灯油	62.9	62.1	▲ 0.8
	軽油	64.6	64.8	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/12～3/18実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.3	▲ 0.5	▲ 0.1	
灯油	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 0.4	
軽油	→ 0.0	▼ -0.2	▼ -0.1	
A重油	→ 0.0			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の145.3円、軽油も同0.2円高の126.2円、灯油は18%ベースで同2円高の1,615円(1%ベースでは同0.1円高の89.7円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに5週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がりが27都府県、横ばいが8県、値下がりが12道県だった。全国最安値は徳島県の138.4円(前週比0.1円高)、次が埼玉県の140.2円(同0.2円高)、最高値は長崎県の157.3円(同0.2円高)であった。最も値上がりしたのは2.0円高の滋賀県(144.6円)、横ばいは高知県など8県、最も値下がりしたのは0.6円安の岡山県(140.3円)・神奈川県(141.1円)・北海道(144.8円)だった。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]		今週 (3/18)	前週 (3/11)	前週比	直近高値	
小 売 価 格	レギュラー	145.3	145.1	▲ 0.2	08/8/4	185.1
	灯油	89.7	89.6	▲ 0.1	08/8/11	132.1
	軽油	126.2	126.0	▲ 0.2	08/8/4	167.4

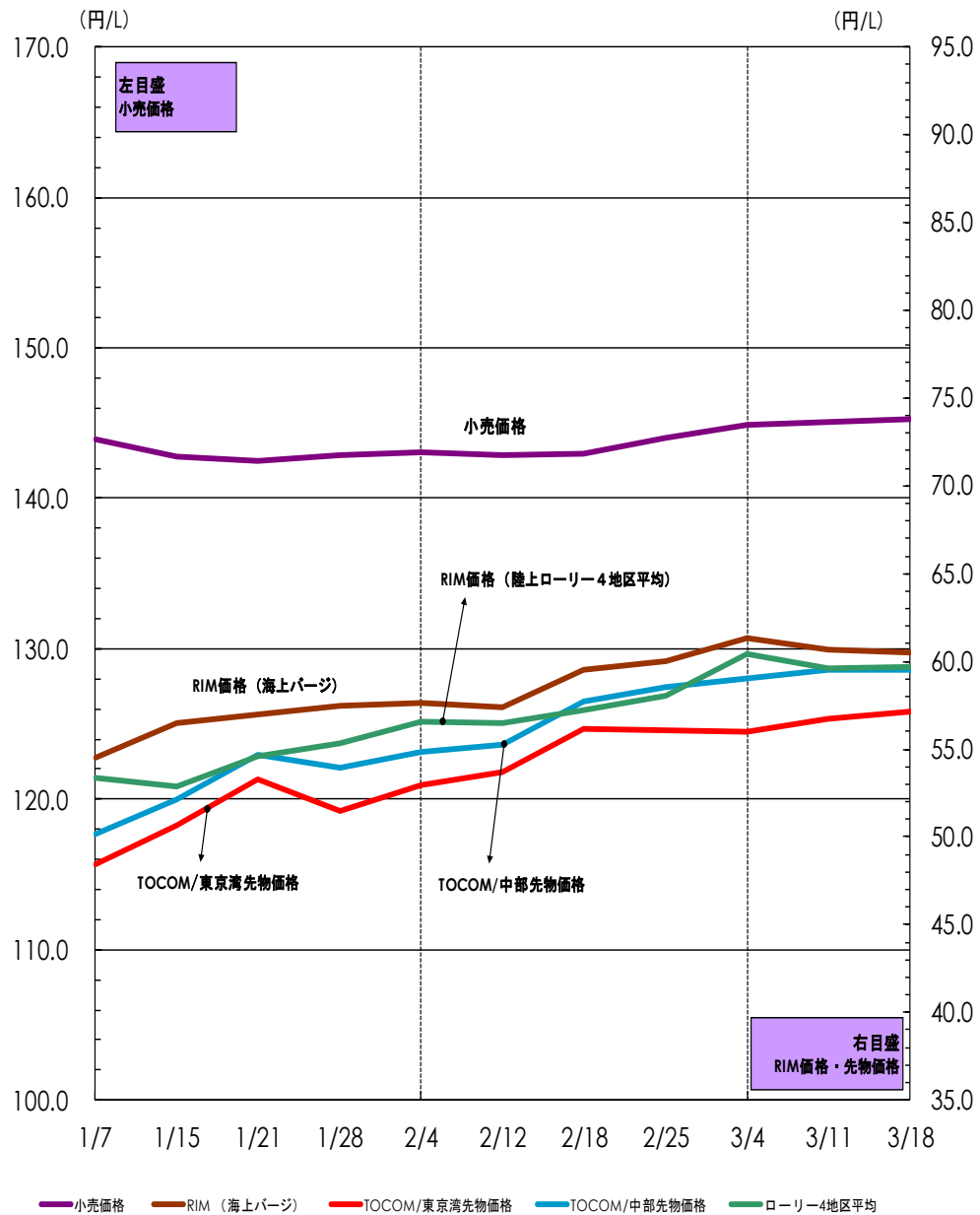
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/1/7 ~ 2019/3/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第49号)の公表は、3/29(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。